

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

果樹カメムシ類の発生状況（技術情報第 8 号）について（送付）

このことについて、本年は果樹カメムシ類の発生が多く、特に天草地域や県南部で多い傾向にあります（5 月 18 日付、注意報第 2 号）。今後、さらに果樹園へ飛来が増加する恐れがありますので、発生状況に十分注意してください。

## 記

予察灯とフェロントラップの誘殺数と被害状況

合志市では、平年（h 10～17 平均）より発生数が多く、近年の多発年の平成 14 年より、やや少ない状況である。（図 1）

宇城市では、平年よりやや多い状況で推移していたが、7 月第 2 半旬でフェロントラップに多量に誘殺されている。（図 2）

天草市では、春から予察灯、フェロントラップへの誘殺数が多く（図 3）、カンキツ園での被害（果実黄変、落果）も発生しており、防除も実施されているが、7 月になっても飛来が続いている。

ヒノキ球果量と球果の口針鞘（吸汁痕）調査

本年は果樹カメムシの繁殖源であるヒノキの球果量に地域差があり、防除所の調査では、天草市が少、熊本市河内町、大津町等が並、宇城市松橋町がやや少、芦北町が並からやや多であった。

ヒノキ球果の口針鞘数は、7 月 7 日の天草市における調査で、本渡地区 1 果当たり 0.7 本（90 果平均）、有明地区 0.9 本（120 果平均）で、ヒノキ林からの離脱の目安である 2.5 本より少なかった。

果樹園への飛来について

天草市のように、カメムシの発生が多くヒノキ球果が少ない地域では、今後、ヒノキ球果の口針鞘数が急増してヒノキ林から離脱し、さらに果樹園に飛来する可能性が高い。しかし、球果量が少ないので、8 月中旬以降はカメムシの個体数が少なくなる予想である。

一方、カメムシの発生数が多く、球果が並～やや多の地域では、当年世代が増加するため、秋期まで注意が必要である。

防除対策について

果樹園へのカメムシの飛来に十分注意して、早期に発見し防除する必要がある。

多発生時の薬剤防除にあたっては、合成ピレスロイド剤または、クロロニコチル系剤を散布し、園内のカメムシを駆除しておく。大量飛来が始まってからでは手遅れとなるので、その前からの観察と対応が大切である。

（参 考）

果樹カメムシの生態について

熊本県では、チャバネアオカメムシが果樹カメムシの中で最も発生数が多く、県南部ではチャバネアオカメムシに次いでツヤアオカメムシが多い。

チャバネアオカメムシは照葉樹林の落葉下等で成虫越冬する。その後 4 月下旬頃より活動を開始し、サクラやクワ等の果実を吸汁した後、7 月上旬からスギ、ヒノキ等の針葉樹の球果に飛来、産卵し、幼虫が球果上で成長し、成虫となる。ヒノキ球果が少ないと、夏期に果樹園に飛来し、カキ、ナシ、カンキツ類等を加害する。その後 11～3 月に落葉下で越冬する。

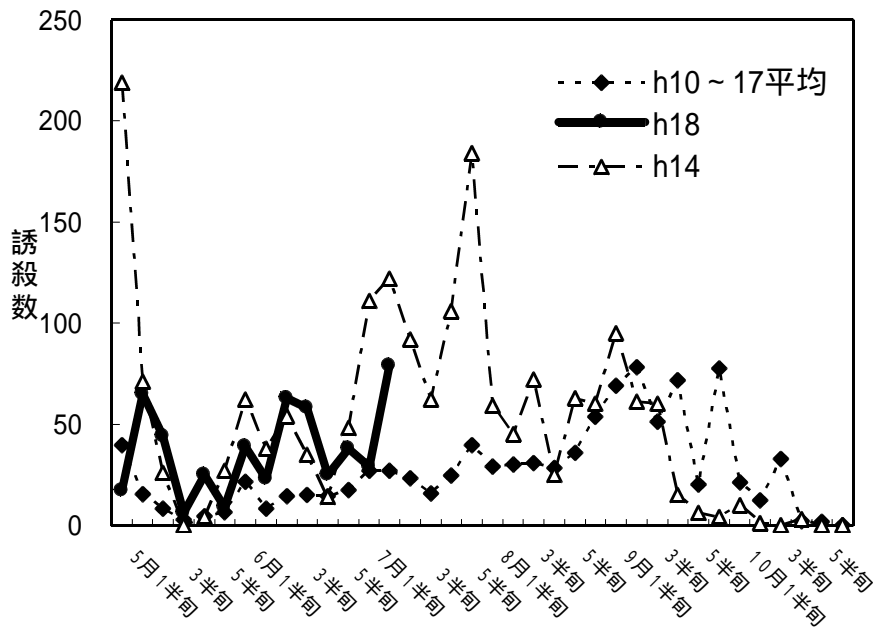
越冬後、8月上中旬まで見られる世代を「越冬世代」と呼び、これが7月中下旬に産卵し、その後に発生する世代を「当年世代」と呼ぶ。越冬世代と当年世代の発生時期は7月中旬～8月中旬に重なる。

#### ヒノキ球果の口針鞘について

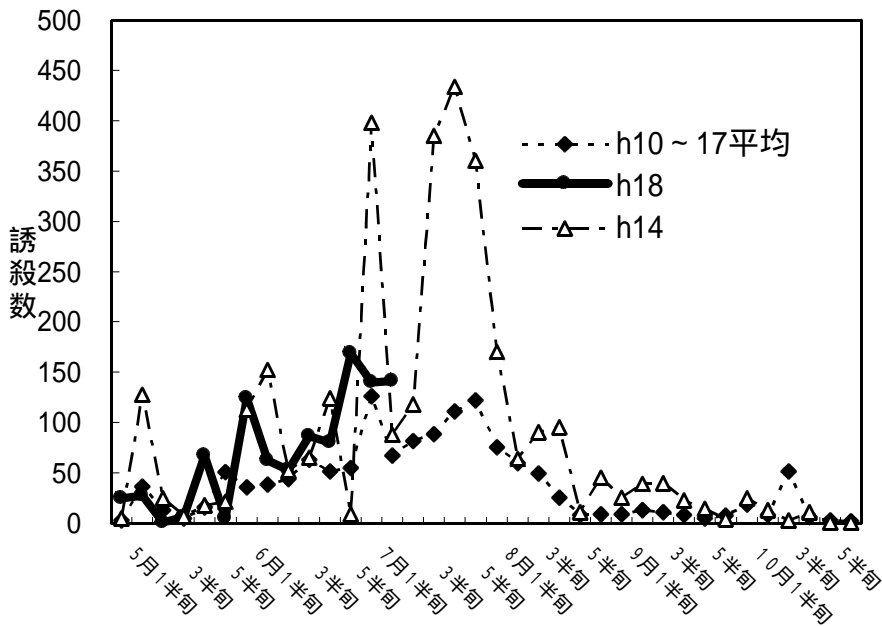
カメムシに加害されたヒノキ球果には「口針鞘」と呼ばれる吸汁痕が残る。カメムシ類は、球果が餌として不適になるとその場から離脱し果樹園に飛来する。ヒノキ球果1果当たりの口針鞘数の平均が25本を超えると、多くの成虫は樹を離脱すると考えられている。

#### ヒノキの球果量の調査法について（福岡県の調査基準による）

- 極多 : 梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実
- 多 : 梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- やや多 : 梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- 中 : 梢頭部から中央部周辺にかけて結実
- やや少 : 梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- 少 : 梢頭部にわずかに結実
- 極少 : ほとんど結実が見あたらない



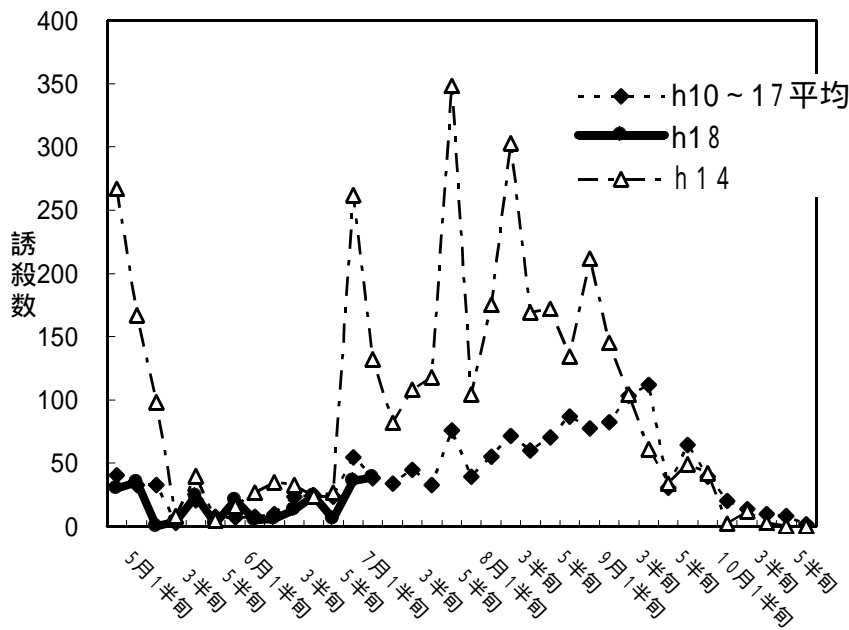
予察灯誘殺数



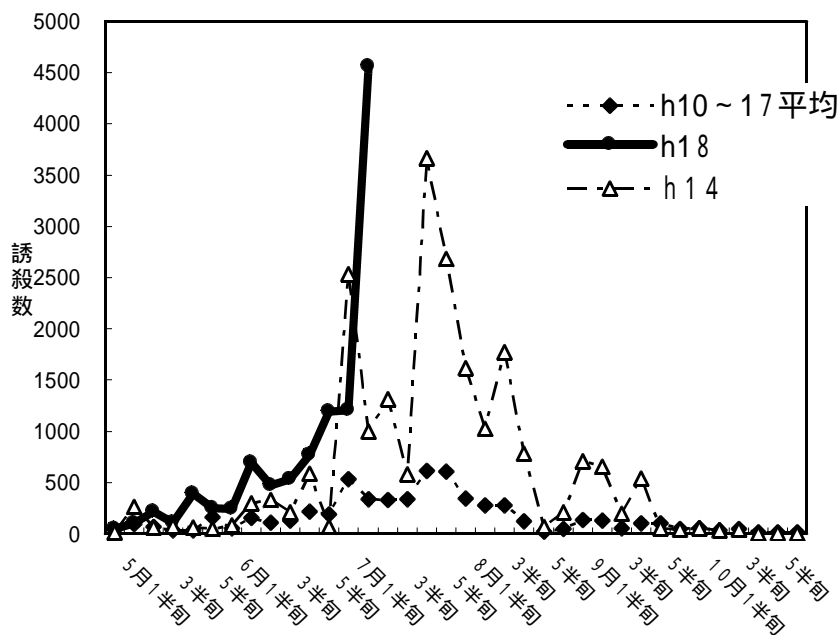
フェロモントラップ誘殺数

図1 予察灯とフェロモントラップの誘殺数(合志市)

注1: 誘殺数はチャバネアオカメムシの数値である。  
 注2: 平成14年は近年の多発年である。  
 注3: 予察灯は100w水銀灯である。



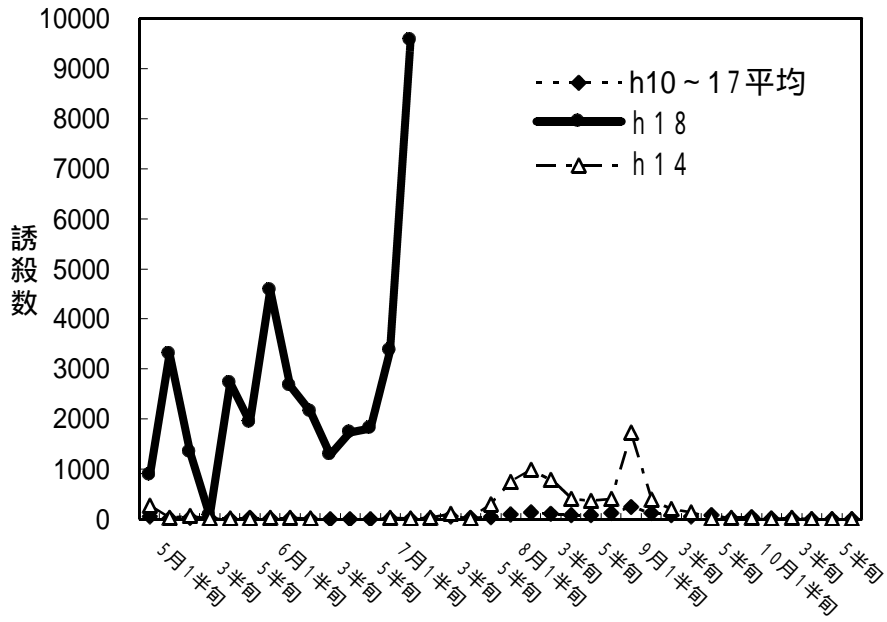
予察灯誘殺数



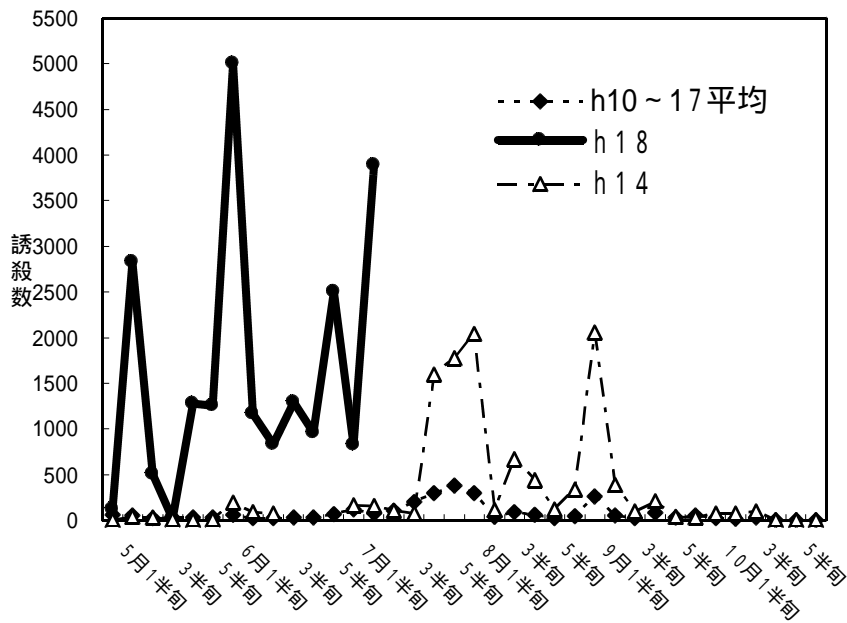
フェロモントラップ誘殺数

図2 予察灯とフェロモントラップの誘殺数(宇城市)

注1: 誘殺数はチャバネアオカメムシの数値である。  
 注2: 平成14年は近年の多発年である。  
 注3: 予察灯は100w水銀灯である。



予察灯誘殺数



フェロモントラップ誘殺数

図3 予察灯とフェロモントラップへの誘殺数(天草市)

注1:誘殺数はチャバネアオカメムシの数値である。

注2:平成14年は近年の多発年である。

注3:予察灯は100w水銀灯である。

天草市の予察灯は本年よりBL20wから100w水銀灯に変更。